

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170100648), 法人名 (有限会社 さとほろ), 事業所名 (グループホーム さとほろ 4階), 所在地 (札幌市中央区宮の森1条6丁目1番16号-401), 自己評価作成日 (令和2年10月31日), 評価結果市町村受理日 (令和2年12月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年コロナ禍のため、今までの生活とは一変してしまい様々な制約がありますが、その中でも最大限の努力を重ねながら... 下記内容をアピールします。
○最大限の感染症予防対策を行いながら、日々の生活支援の質を落とすことなく一人ひとりの体調管理に努めている。
○6/18～条件付きではあるが、ご家族の面会を継続して支援している。
○「ここは家ではないが、そう悪いところでもない…」と感じてもらえることを目標に、家庭的で温かな雰囲気大切に、一人ひとりが持つ力と尊厳を大切に支援している。
○コロナ禍だからこそ、ご家族に安心してもらえるよう、こまめな報告、連絡、相談に努めている。
○入居者とスタッフの距離が近く、関わりを大切に、日々楽しく笑いあふれるホームであるよう努めている。
○日課の充実と室内行事の工夫で、共に楽しく暮らせるよう取り組んでいる。
○食べることは生きること...を意識して食にこだわり、安全で楽しく美味しく嬉しい食事の提供に努めている。
○個々の身体状況を把握し、医師・看護師・ご家族と連携をとりながら、早期発見、早期対応に努め、日々健康管理に留意し24時間連携体制を整え支援している。
○入居者の安心と安全、スタッフが心身共に余裕を持って入居者に向き合えるよう、夜間は2ユニット3人、日中も1ユニット3.5人の人員体制を整えている。
○個々のスタッフが認知症の理解を深め、それぞれの課題を克服出来るよう話し合いを重ね支援に努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170100648-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年11月26日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

Table V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します. Columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを意識し、スタッフ全員で意見を出し合い作成した。『地域に根差し、知恵と工夫と創造力を持ち、ゆったりとした毎日を過ごせるよう、ひとりひとりの楽しみと健康と安全を考慮しながら、家族の協力を得つつ学び支えます』という理念があり、玄関、台所、スタッフルーム等に理念を掲示、毎朝の引継ぎ時に理念を唱和している。スタッフ一人ひとりが理念に沿った支援を実践出来るよう努力していきたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナ禍のため、地域のイベントが中止となり利用者の交流の機会はなかったが、感染予防対策をとりながら近隣への散歩では、地域の方へ積極的に挨拶するよう努めた。10月に実施された町内会のゴミ拾いにはスタッフ2名が参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナ禍のため、専門学校の実習生や近隣中学校生徒の職場体験学習の受け入れもなく、地域貢献は出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第二水曜日に運営推進会議、家族会の開催が定着していたが、今年はコロナ禍のため、4月より会議を見送り、ホーム内の状況を報告書の送付にて伝えている。そのため、各関係機関やご家族の意見を聞くことは出来ていない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年はコロナ禍のため、管理者連絡会も中止となったが、コロナ感染症予防対策、その他確認したいこと等については、札幌市のネット情報を活用した。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束委員会」を中心に、振り返りとグレーゾーンの確認、学びの機会を設けている。禁止の対象となる具体的な行為を意識し、スタッフ一人ひとりが自覚と責任を持ち互いに注意喚起しながら発生の防止に努めている。マンションの玄関はオートロックであるが、各フロアは施錠をせず、離所に気づけるよう玄関ドアに鈴を付け工夫している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が中心となり、定期的に学ぶ機会を設けている。日々のケアや関わりを振り返り不適切な対応がないか、入居者の身体の様子は都度確認し、記録に残し会議で話し合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍にて外部研修中止のため、内部研修にて学ぶ機会を設けたが、内容の理解については十分とは言えない。更に制度の理解を深められるよう学び、必要時には活用出来るようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には契約書や重要事項等で説明し、利用者やご家族の不安や疑問点を聞き、十分な話し合いを心掛けている。また、改定時には運営推進会議や家族会、書面での報告、同意書での確認等で理解、納得につなげている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見や要望をくみ取れるよう意識し取り組み、ご家族には話しやすい雰囲気作りと都度尋ねることに努めている。コロナ禍のため、面会制限中ではあるが、来所持や電話等でも確認している。要望があった時には話し合い、記録に残し速やかな改善に努めスタッフにも周知している。また、言いにくい時には外部機関があることも知らせている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは個々で面談する機会を設けている。また、普段から意見を言いやすい関係性作りを心掛け、全体会議、フロア会議、日々の勤務に於いてスタッフの意見や提案、思いを聞き取るよう努めている。スタッフが心身共に余裕を持って働けるような人員配置や有給の利用等、出来る限りの努力はしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の仕事に向き合う姿勢や力量に差があり多くの課題はあるが、代表者は、スタッフ個々の努力や実績、勤務状況の把握に努め、実績評価を給与に反映している。増員と勤務体制を見直し、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせた採用時研修、現場に於いての実技指導、内部研修では資料の作成と発表の場を通し習得につながるよう努め、外部研修には個々の力量や必要なスキルテーマを考慮した参加を促している。他希望による外部研修参加、資格取得も進めている。※今年はコロナ禍のため、ほとんどの外部研修が中止となり、研修参加は11月以降の予定となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はコロナ禍のため、各会議や勉強会が中止となり十分な活動が出来ていないが、電話やファックスでの情報交換に努めた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	書面情報からもバックグラウンドを知ること努め、ご本人には積極的に声を掛け、不自由しそうな点や不安面を理解し、それらを解消出来る環境を整備し、周囲との仲介も行いながら、安心につながる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る経緯を知り、困っていること、入居後の不安等も含めご家族の思いをよく聴き、その思いを受け止め、解決方法を一緒に考え、安心して頂けるよう、こまめな報告、連絡、相談にて信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他機関や他施設よりグループホームへの入所や住み替えを希望されて見学相談に来られるケースが殆どですが、歯科往診や口腔ケアなど、個別に必要なサービスについての説明をし、それらのサービスを受けられるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として敬うことを忘れずに、入居者本位で暮らせるよう、一人ひとりの尊厳を大切に、相手の立場になり考え、作業や各レクリエーションを一緒に行ないながら、出来る力が活かされる支援を意識して、共に暮らす者としての関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に支えていきたいことを伝え、本人と家族の絆を大切にしている。現在は感染対策をしっかりとりながら、条件つきではあるが、面会の機会を失くさずに支援している。またスマホで写真や動画と一緒に様子を伝えたり、テレビ電話を活用し共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではありますが、大切なご家族との関係が途切れないように、制限つきの面会を継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの病状や認知度、性格を理解し、利用者同士の折り合いや関係性を把握し、トラブルを回避しストレスを受けないよう仲介している。入居者同士が作業やレク活動等を通じて関わり、支え合える関係作りの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居から良好な関係作りに努め、看取りを終え退去されたご家族から、入居を希望されている方の紹介を受けたり、お菓子の差し入れ、ビニール袋やウエス等の必要物品を頂く等、つながりを大切にしながら関係継続に努めている。また、逝去後四十九日、一周忌等には連絡をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でよく話をすることを心掛け、言動や表情などから希望や意向の把握に努め、ご家族からの助言もスタッフ間で共有し、希望や意向に沿えるよう努めている。困難な場合は、フロア会議で検討するようになっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に公的機関やご家族から可能な限りの情報を聞き取り、入居後もご本人、ご家族とコミュニケーションを取りながら、新たな情報もスタッフ間で共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身状態や新たな気づきは記録や申し送りで共有し、個々の生活リズムの把握と、有する力の維持継続、新たな力を発見出来るよう関わりに努め、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な方には思いや意向を聴き取り、支援のあり方についてご家族の意向も確認し、担当スタッフを中心にフロア会議で話し合い意見を反映し作成している。意思表示が困難な方は、ご家族の意向をもとに本人の立場になって介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の申し送り用紙に、心身の状態や気づき、その処置や対応、経過や結果等を細かく分かりやすく記入するよう心掛け、スタッフ間での情報共有に努めている。また、ケアプランを反映した日々の様子を記録し、アセスメントや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフの配置を充実させる取り組みと合わせ、ホームの介護タクシーを利用する等して、個々のニーズに合わせた対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナ禍のため、面会、訪問制限、外出自粛中のため十分な取り組みは出来ていないが、敬老の日のお祝いで、お寿司の出前を取り美味しく楽しいひと時を過ごした。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明し、同意があれば協力病院へ変更、継続してかかりつけ医の受診を希望される方には、ご家族対応の了解を得て必要な情報提供の支援に努めている。受診が困難になった場合には、その旨ご家族に伝え了解を得て往診医へ変更し、都度の報告連絡相談にて適切な医療を安心して受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎火曜日の訪問看護師とは、担当スタッフを中心に個々の状態を情報共有し、日常的な健康管理、様々な症状についての処置や指示を受け対応している。その情報は全スタッフが把握出来るようになっている。急な体調不良時にも24時間の連絡体制があり、受診、往診が受けられるよう協働し速やかに対応出来る体制を整え支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書を提出し、本人が混乱なく安心して治療を受けられるよう病院関係者との面談で情報交換を行っている。また出来るだけで面会に行き、本人の様子、治療の経過状況の把握に努めている。退院の時期に関しては、担当医・ご家族・本人の話し合いにて、早めの退院が出来るよう受け入れ態勢を整え対応している。また、主治医がホームDrの方も、必要時には入院が出来るよう協力病院と提携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎年10月～11月頃とケアプラン見直し時、または状態の変化に伴い、現状と今後考えられる状況、ホームで出来ることについてご家族に説明し意向を確認、書面にて同意を得ている。また、状態に合わせご家族と医師、看護師と話し合いの場を持ち方針を確認、全スタッフがそれを共有し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡体制を整え、救急搬送時に必要な情報を一つにまとめている。内部研修、外部研修にて学ぶ機会と訓練を受けてはいるが、いざという時に正しく対応できるか不安は少なくない。更に実践力を身に付けられるよう学びの場を設けていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度はコロナ禍のため、消防署や町内会の方、ご家族の参加協力はなかったが、夜間・日中の出火を想定した避難訓練(年2回)・救助方法の実践を入居者(可能な方)と一緒に、その反省を共有している。地震・水害時の対応、避難方法についても確認し合っている。また、マンション内での通報訓練、水消火器使用の実践や外部研修にも参加し実践訓練を行っている。地域との協力体制については、まだまだ努力が必要と感じている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者であり人生の大先輩であることを忘れずに、日々の言葉かけや対応には気をつけるよう心掛けてはいるが、馴れ合いから配慮に欠けてしまう言動もあると思う。気になる対応については、スタッフ間で互いに注意し合える関係作りに努めているが十分とは言えない。質の向上に向け努力を重ねていきたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人をよく知ることに努め、個々に応じたコミュニケーションの工夫、表情や仕草等からも思いをくみ取り、それらを出せるよう雰囲気作りに努めている。自己表現が難しい方に対しては思いをくみ取れるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気分配慮しながら、本人のペースを大切に対応している。自由に居室や共有空間で他者と過ごされている。今年はコロナ禍のため室内で過ごす時間が多くなり、脳トレや作業、体操や様々なレク活動、行事、散歩やドライブ等々、楽しみややりがい励みにつながる日課の提供で、共に実りある一日を過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	偶数月に訪問理美容を利用している。ホーム内外、寒暖やTPOに合わせた身だしなみに気を配っている。好きな色を選んでマネキュアを塗ったり、行事や外出の際にはお化粧品やヘアメイクをしておしゃれの支援に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	二十四節気や毎月の行事、旬の食材、日々の希望を献立に反映させ、個々の力量に合わせての下ごしらえ、味見、下膳、食器拭き、テーブル拭き等を一緒に行っている。おやつ、煮豆、あんこ、漬物等も一緒に作り、出来る力を活かす支援に努めている。スタッフも一緒に食し、雰囲気や会話(コロナ禍のため自粛中…)も大切にしながら、楽しい食事の時間の共有を心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年2回栄養スクリーニングを行い、持病と体重の管理に努めている。個々に合わせた食事形態や量でバランスの良い食事の提供に努めている。食器類の工夫で、安全に飲食が出来るよう支援し毎日の飲食量を記録している。目でも楽しめる内容と楽しく食せる雰囲気作りにも心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には十分な水分摂取の支援に努めている。毎食後個々の力に合わせて声掛けや見守り、手助けを行っている。個々に必要な口腔グッズを活用し、適時義歯洗浄も行っている。また、希望者には毎木曜日に訪問歯科衛生士にて口腔内チェック、口腔内清掃、嚥下体操等を受けている。その他適時歯科往診を受けて、口腔内診査、消毒、義歯のメンテナンス、必要時の治療を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに個々の排泄パターンを把握し、失敗のないよう声を掛けて誘導している。夜間は居室でポータブルトイレを使用する方もおり、出来るだけバット汚染を少なく出来るよう、個々や夜間など状況に合わせて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握しながら、十分な水分摂取と便通を良くする食材、食品の工夫、体操や足こぎ、散歩等で身体を動かす機会を作り便秘予防に努めている。高齢に伴い自然排便の難しい方には、医師の指導のもと服薬や座薬の調整でコントロールしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表をもとに、その日の体調や気分、外出予定等、希望に合わせて皆が平均的に入浴出来るようにしている。汚染時等も臨機応変に対応出来るよう支援している。不調等で入浴が困難な時は、清拭や足浴、手浴、ドライシャンプー等で清潔を保てるよう支援している。また、楽しい入浴が出来るよう会話や香りにも配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調、年齢、生活リズムを考慮しながら、温湿度や寝具、衣類、周囲の音や臭い等にも気を配りながら、安心して休息、眠れるようよう支援している。また、夜間眠れない時には飲み物の工夫や湯たんぽの使用、会話等で安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの説明、処方箋、申し送り等にて目的、用法、副作用等の理解に努め、薬が変わった時には特に注意を払い、必要時には医師、看護師に報告、相談し適切な処方の支援に努めている。また、服薬確認は服薬担当スタッフを中心に複数のスタッフで行い、服薬介助時には目と耳と声で再確認し事故のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る力を発揮出来るよう、脳トレ、作業、レク活動、会話、趣味や特技を生かせる時間と場の提供に努めている。また、個の楽しみ、集団での楽しみを工夫しながら、役割や楽しみごとが、自信や励み、喜びにつながることを願い支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって、また個々の体調や体力に応じて、可能な限り散歩や買い物、ドライブ等で外気に触れ季節を感じ、気分転換が出来るよう支援していた。ほぼ毎月の外出行事と合わせ、さとほろ三大行事(新年会・お花見・敬老会)では、ホテル等でご家族と共に会食を楽しんでいた。また、自宅へ帰られる、ご家族と買い物、外食等の外出も行われていた。今年はコロナ禍にて、近隣への散歩、ドライブ…のみの外出支援となった。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方や持っていないと不安になる方は、ご家族と相談のうえ所持している。その他基本、ホーム立替え後日請求にて対応している。買い物時には、金額の計算や支払いの機会を持つよう支援していた。今年はコロナ禍にて、お金を所持されている方には、買い物代行で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人との電話のやりとり、絵葉書を書いて近況を伝える等仲介支援している。コロナ禍にて面会の難しい遠方のご家族には、テレビ電話を活用している。毎年個々の写真入り年賀状を作成し、ご家族や知人へ送っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が狭く、車椅子使用の方もおり限りはあるが、家庭的な雰囲気大切にしながら、清潔を心掛け入居者と一緒に制作した物や、季節ごと行事ごとの装飾の工夫と、生花等で四季を感じ居心地の良い空間となるよう心掛けている。また、その時々に合わせてCDやラジオ等で音楽を流し、都度の換気や消臭剤の使用で室温、湿度、臭いにも気をつけている。特に今年はコロナ禍のため、室内の換気、消毒を重点的に行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が絶対的に狭く、車椅子を使用している方もいるため制限を受けているが、入居者同士譲り合いながら皆でテレビを楽しんだり、食卓で談笑している。気の合う者同士、声を掛け合い互いの居室を訪ねたり、玄関にベンチを置いて外を見ながら一人になれる空間を作る等、可能な範囲で工夫に努め、食卓での席もその時々状況に応じて交換する等に対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して過ごせるよう、今まで使用していた家具やお仏壇、装飾品、家族の写真等、ご家族と相談しながらコーディネートし居心地よく過ごせるよう工夫している。ポータブルトイレを使用する方もいるので、消毒・換気には十分配慮し不快のないよう努めている。入居年数の経過に伴い物品が増え、収納にも限りがあり手狭になることもある。身体状況等で環境の見直しが必要な時には、本人、ご家族に相談し、危険や混乱のない居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	賃貸マンションで、改築型のホームのため段差もあり限りはあるが、個々の歩行状態や認知能力等を考慮し、踏み台や手摺の設置、ポップで場所を知らせる、安全な動線を考えて掘まり歩くことが出来るよう家具の配置や高さ等の工夫をし、出来る力を活かして、誰もが安心して安全に自立した生活が送れるよう努めている。		